

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2 入学 現6年生	国語		算数		理科
	5年時	6年時	5年時	6年時	6年時
	県	全国	県	全国	全国
	64.8	63	61.6	53	57
	(1.07)	(0.98)	(1.01)	(0.98)	(1.04)
R7 正答率の全国比		0.94		0.91	1

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和7年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・5年時では、国語、算数とも県平均を上回っていたが、6年時ではやや下回っている。全国平均との差はさらに開いている。理科は、県平均を上回り、全国平均並みである。
- ・国語では、記述式の問題で正答率が低く、無回答率が10%以上と高かった。それ以外の問題での無回答は、ほぼ無いか、1桁台であった。
- ・算数では、分数の問題で正答率が低かった。必要な条件を選択して記述する問題も正答率が低かった。
- ・理科では、記述式の問題が県、全国と比べて平均正答率を15%以上上回った。領域では、「エネルギー」の正答率が低かった。
- ・意識調査では、学校に行くのが楽しいと答えた児童が全国及び県平均より高く、学習意欲や学習したことを生かそうとする意識も高いことがわかる。また、PC・タブレットなどのICT機器を学習で使用し、情報を収集したり文書等を作成したりするなどいろいろな場面で活用している児童が多い。国語に関する意識調査では、工夫して文章を書くと答えた児童が多いが、書く時に時間がかかっていることがわかる。算数に関する意識調査では、最後まで解いたり工夫して計算しようとしたりする意欲が見られる。考え方の説明をする活動がやや少ないと感じている児童もいることがわかる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・夏季休業中に、職員研修として2～4年生までに実施したCRTと県学状（5年生）、全国学状（6年生）の分析・考察をする機会を設けた。各学年、担任と関係職員で分析・考察し、夏季休業以降に取り組む学習内容を考えた。
- ・国語・算数の基礎的な学習（漢字・ことば・計算など）を朝の時間（火と木の学年タイム）に繰り返す行う。
- ・条件にあわせて「書く」活動を、授業や家庭学習などで継続的に行う。
- ・授業では学習用端末の活用を継続し、調べる学習やグループ学習、対話する場や発表する場などいろいろな場面での利活用を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習で取り組んだ優れた自主学習ノートをコピーして掲示し、児童が互いに学び合い、高め合うことができるコーナーを設置する。特に、高学年児童の学習意欲の刺激になっているので、引き続き、定期的に行い、学習に自主的に取り組む意識を高めていく。
- ・お互いの授業を見合い研修する「みてみて授業」や、ICT 主任によるすぐに生かせる「ICT ミニ研修」の実施など、教職員同士の自主的な研修が、児童の学習にも還元されるので、継続して教職員の授業力向上に努める。